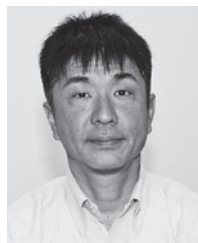


スーパーティーチャー 中央校・佐藤 彰 教諭インタビュー



教員としての高い専門性に裏付けられた実践的指導力があり、児童・生徒のために優れた教育活動を行っている「スーパーティーチャー」。

今月号では、平成25年度に生徒指導のエキスパートとして認証され、3年目を迎えた中央校7年3組の担任を務める佐藤彰教諭に、小中一貫校での生徒指導の状況についてお話を伺いました。

Q: 今日の児童生徒の生徒指導上の問題と特に注意・留意している点は?

A. SNS、ICTによるトラブルや犯罪に巻き込まれることもあり、防止に向けての啓発が課題です。また家庭教育力や規範意識の低下も感じます。わがままで忍耐力がなく、自分の気持ちだけで行動する子どもも目立ちます。

対応としては、問題を起こす子の背景を理解することが大事で、子どもがむしろ犠牲になっている場合もあります。粘り強く、根気よく子ども的心情に寄り添いつつ、善悪をはっきりさせるメリハリのある指導を心掛けています。

Q: 小中一貫校としての生徒指導の工夫は?

A. 小学校へ乗り入れ、集会時にスマホや交通事故防止等の説論など一貫した指導で、中1ギャップの解消にもつながっています。また情報交換を小学校の先生と密に、日々継続して行うことができます。

点も一貫校のメリットと感じます。

Q: 保護者・地域との連携で、協力を求めたい点は?

A. 見て見ぬふりをしないこと。児童・生徒を地域の大人として育てていく意識や姿勢を望みます。気になる事があれば、学校に気軽に相談していただき、互いに情報共有をしていければと思います。

Q: 生徒指導スーパーティーチャーとしての抱負は?

A. 学校組織としては、全員で児童・生徒を見守り、育て、事に当たる体制と組織づくりを進め、児童・生徒が楽しく安心して通える学校づくりを目指します。個人的には、生徒指導に関する若手教員の育成を行い、指導力の向上や子どもへの安心につなげていきます。子どもにも大人にも大上段に構えることなく「自然体」で接し、現実と向き合っていきたいと思っています。



問い合わせ 教育委員会 学校教育課 ☎75-2222

11月の定例教育委員会のお知らせ

日時 11月16日(月) 9時30分
場所 市役所第2委員会室(自由に傍聴できません)
問い合わせ 教育委員会教育総務課 ☎75-3450



温故創新

市長コラム Message for citizen

人々の心を希望に向ける

市長 横尾 俊彦

10月24・25日の日本晴れのもと、多久まつりは盛大な開催でした。市内外から多くの皆様が集われ賑わいました。25日は、多久聖廟創建以来三百年以上続く恒例の釈菜も厳かに納めることができ、さらに釈菜の舞・参列生徒の唱歌・幼児太鼓・花棒舞・腰鼓・獅子舞などに観客も魅了された様子でした。

そんな秋のある日に、宮内庁から丁寧なお電話を頂きました。内容は、皇后様お誕生日にお送りした祝電への御礼でした。

天皇陛下に同行され被災地訪問など多くのご公務を献身的にお務めされるお姿に感謝の念が募るばかりです。副島家の御縁もある多久から、81歳のご長寿の祝賀と、ご健勝を祈念する心をお送りましたのです。皇后様のご配慮を賜り改めて感動いたしました。

お誕生日に際しての御言葉では、愛子内親王様との語らいにふられていきます。戦争末期の広島で、人手不足のため市電の運転を任されていた女子学生たちが、原爆投下4日目に自分たちの手で電車を動かしたという記事のことが話題になったという内容です。そして「悲しみの現場に、小さくとも人々の心を希望に向ける何らかの動きがあった」という記事に心を留めたことを嬉しく思いました」と述べておられます。

「人々の心を希望に向ける」。なんとも素晴らしい響きです。私たちは、明日への希望があれば、辛苦を耐えて進んでいきます。私もがそのようになれる社会を創りたいと改めて感じます。

11月は政策提案・予算要望の季節。国への要望を行います。地方創生戦略ビジョンをまとめ、市勢発展にも「心を希望に向ける」の心で臨み、実り多き未来に向け、大いに努力して参ります。

